



UU now

発行：宇都宮大学 編集：広報室
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
URL <http://www.utsunomiya-u.ac.jp>
E-mail plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

トップレベルを目指す

OB INTERVIEW

とにかくサッカーが好き



大田原市サッカー協会会長

高久 勝美

Takaku Katsumi

【たかく かつみ】1938年、栃木県大田原市生まれ。62年、宇都宮大学学芸学部（現教育学部）卒。同年、西那須野町立三島中学教諭。68年、栃木県立黒羽高校教諭。70年、同矢板高校教諭。72年、同矢板東高校教諭。90年、同大田原高校教諭。99年、定年退職。北那須サッカー協会会長を兼任。

若き頃、俊足の強力FWとしてその名が全国に知られた高久勝美さん。栃木県のサッカーが輝きを放っていた時代の主力選手として活躍、その後、指導者の道を歩む。「蹴球」から「サッカー」へ。日本サッカーの黎明期に、幸運にも最先端の技術理論に触れる機会を得、無名だった高校を栃木県を代表する強豪校へと導いていった。

取材：大学院教育学研究科2年・大平准之、同・山口佐知子、同・増山明恵、大学院工学研究科2年・村田大誠

■「世界のサッカー」を知る
高久さんは卒業後教員となり、た高久さんは卒業後教員となり、栃木SC（Jリーグ2部）の栃木サッカーに加わった。チームの俊足FWの加入で、それまで低迷していたチームの戦力が大幅にアップ。1962年、宇大サッカー部時代、関東中当時国内最高レベルの大会だった信越大学体育大会で連覇を飾った国体に8年ぶりに出場を果たす。以来3年連続国体ベスト8の輝かしい実績を残した。

その時代は、日本サッカーの一大変革期でもあった。東京オリンピックを控え、日本代表チームの指導のため、後に「日本サッカーの育ての親」と呼ばれるクラマー氏が60年に来日。高久さんが大学生の時だった。「偉大な指導者により、日本のサッカーのすべてが変わった。」これが世界のサッカーなのかと驚かされた。

■「数学」から「体育」へ
サッカーとの出会いは小学生時代。下校途中、中学校の校庭で先生と生徒がサッカーの練習をする光景を目にした。なぜか大きな体の先生が豪快にサッカーボールを蹴飛ばす姿に強烈な印象を受けた。「中学校に入ったら、このスポーツをする。」そう心に決めた。以来、高久さんの人生にサッカーは欠かせないものになった。

教師だった父の影響もあり「数学（算数）」の教師を目指し学芸学部に入學。いま思い浮かぶ大学生活は「サッカーに明け暮れた毎日」という。「運動部といっても、けっして強制的なものではなく、サッカーが好きで集まってきたメンバーばかり。それぞれが自主的に技を磨いた。自由な気風、そして部員同士の大らかな交流。サッカーを通して少しずつ「体育教師」への思いを募らせていた。

ある日、陸上競技の授業に飛び入りで参加した。「走ることも跳ぶこともレベル以上の記録を出せた。自分の力が通じることを知った」。それが「体育教師」を本格的に目指すきっかけになったという。「グラウンドの感触が私に合っていたというか、縁があったのでしょね」。

卒業後、中学校の体育教師に。栃木サッカーの選手として活躍した期間は短い。仕事が忙しくなり選手生活にピリオドを打ち、指導者としての道を歩み始める。初めて監督をした中学校のチームがいきなり県大会で準優勝したことで、「指導者の面白さを知った」。やがて、矢板高校サッカー部の監督として迎え入れられ、2年後、同校から分離・独立した矢板東高校の監督となる。

同時期、那須に「湘南ベルマーレ（Jリーグ1部）」の前身「藤和不動産」サッカー部が創設された。雪で練習場が確保できない期間、「藤和」の選手たちは矢板東高校のグラウンドで練習した。その中にはセルジオ越後氏（現サッカー解説者）の姿もあった。監督、選手から最先端の戦術・技術を教わった。「矢板東には、優れたサッカー理論が根付いていた」。

県北の無名チームは、やがてインターハイ、全国高校サッカー選手権に出場する強豪校に。「鬼怒川より北にある高校は、強くない」と言われ、意地を張っていたところもあった。教員生活の最後は、「母校のサッカー部を立て直す」ため希望して大田原高校に赴任。同時に、大田原市サッカー協会の創設に尽力。「この地域に、サッカーを普及させたかった」。

■「サッカーを楽しむ」
今年の正月。高久さんは国立競技場で、全国高校サッカー選手権準決勝の矢板中央高校の試合を観戦した。栃木県勢として24年ぶりに4強に入った同校の監督は矢板東高校時代の教え子であり、監督になることを勧めたのも高久さん自身だった。定年退職後は、同校サッカー部の強化にも協力していた。

いまは、「ねんりんピック」出場を目標とする「大昭クラブ」の監督兼プレーヤー。クラブには大学時代の仲間もいる。「若い人たちの技術と比べたら、とてもサッカーと言えない代物ではない。でも、とにかくサッカーが好き。サッカーがマイナーだった時代を経てきた人は、サッカーを楽しむことを知っている」。

写真撮影のため、宇大のグラウンドに立った高久さん。ユニフォームからのぞく鍛えられた肉体は、とても71歳には見えない。このころ何もう変わっていない。いまでも、足は速いですよ。

（文・ピオス編集室／撮影・木原悠葉）

CAMPUS



毎日新しいことを学べる喜び

日本に興味を持ったきっかけは、日本文学です。最初に読んだのが村上春樹、その後は大江健三郎の作品をたくさん読みました。ロシアでは日本語と英語を勉強していました。宇大に留学したクラスメートから「宇大は日本語の勉強はもちろん、いろいろなことを体験できるいい大学」だと聞いていました。

日本は伝統のある国で、礼儀正しい国民というイメージでしたが、実際に日本に来てその通りだと思いました。日本は人がやさしいです。益子焼の見学、茶道体験、歌舞伎観賞などいろいろなイベントがあり、毎日新しいことを学び、経験できてうれしかった。

将来は、日本語と英語の通訳者になりたい。ロシアの日系企業に勤めながら日本語の勉強を続け、その後、日本の大学院に進みたいと思います。

- ① GALDANOVA EKATERINA
② ロシア ③ 交換留学生
④ イルクーツク国立言語大学 (ロシア)
⑤ 国際学部 ⑥ ー

柔軟なカリキュラム選択が魅力

インドネシアでは高校の英語教師をしていました。日本を留学先に決めたのは、文明が進んだ国でありながら、同時に伝統を守っているということに魅力を感じたからです。宇大は、カリキュラムが柔軟で自分が学びたい科目を自由に選ぶことができたので、いくつかの候補の中から選びました。

宇大では英語教育と日本の歴史・文化を学んでいます。イベントにも参加しましたが、楽しかったのは日本の家庭でのホームステイで、珍しい習慣を体験できました。

また、日本人はきちんと列をつくって順番を待つなど、マナーのいい国民であることを実感しました。帰国 (3月) 後も、日本語を勉強し続けたいし、日本の良さを教え子に伝えていきたい。機会があればまた日本に戻って来たいですね。



- ① FIRY KUSTANTIN
② インドネシア ③ 教員研修留学生
④ ー ⑤ 大学院教育学研究科 ⑥ ー

広い考え方ができるように



モンゴルの日本料理店でアルバイトしたことが、日本に興味を持ったきっかけです。モンゴルでは環境アセスメントについて勉強していました。宇大では農学部で環境工学について学びました。

日本は、環境について関心が高く、子どもたちへの環境教育も進んでいることがわかりました。日本のような (先進) 国と発展段階にあるモンゴルとは、環境対策のやり方も違ってくるということを宇大で勉強して感じました。すべて日本と同じことをするのはなく、日本のやり方を基本にしながらモンゴルに適した対策をすることが大切だと考えるようになりました。

将来は大学の先生になりたい。そのためにも日本以外の国にも行って、いろいろなことを勉強し、広い考え方ができるようになりたいと思います。

- ① ZORIGT BATJARGAL
② モンゴル ③ 交換留学生
④ モンゴル国立農業大学 (モンゴル) ⑤ 農学部 ⑥ ー



- ①氏名 ②国籍 ③留学生種別 ④派遣元の大学 (日本人留学生の場合は留学先の大学) ⑤本学での所属 ⑥学年 *2010年2月現在

留学生支援が充実している宇都宮大学

日本の豊田工業高等専門学校で3年間勉強した後、2年前に宇大に来ました。宇大に入った先輩から「宇都宮は住みやすい」と聞いていましたが本当にそう思います。先輩からいろいろな大学のことを聞きましたが、宇大は留学生に対する支援がとて素晴らしいと思います。イベントがあれば、学生支援課の方が電話で連絡してくれますし、先生方も留学生をよく面倒みてくれますので、助かっています。

これからも、留学生同士や日本人の学生との交流の機会をたくさんつくっていただければと思います。大学では情報工学 (画像処理専攻) を学んでいて、4月から宇大の大学院に進みます。卒業後はしばらく日本の企業で働いた後、帰国したい。ラオスの日系企業で働きたいと思っています。



- ① BOUNYONG SOUKSAKHONE
② ラオス ③ 私費留学生
④ ー ⑤ 工学部 ⑥ 4年

比較言語学の研究者を目指して

小学生のときに空手を、高校生のときに合気道をやっていた、それが日本を知る機会でした。小学生の頃からいろいろな言語を学んでい



ましたが、日本語はヨーロッパの言語と全く違うタイプであることを知り、日本語を勉強してみようと思いました。日本文化への興味もあり、大学で日本語を専攻しました (英米文学も専攻)。

宇都宮のことは、宇大に留学した学生から聞いていましたが、みんな帰国したくなるほど日本が好きになっていました。私も本当に日本が好きです。留学したことで日本の日常生活を知ることができますが、それは留学の一番重要な点だと思います。

チェコでは話せなかった日本語も話せるようになりました。いまは8カ国語が話せます。日本の大学院に進んで

日本語や日本の文化を学び続けたい。言語学に興味があるので、将来は比較言語学の研究者になりたいと思っています。

- ① ZAWISZOVA HALINA
② チェコ ③ 日本語・日本文化研修留学生
④ パラツキー大学 (チェコ)
⑤ 留学生センター ⑥ ー

大学間交流協定校

中国	寧波大学 (浙江省寧波市) 香港大学 (香港) 復旦大学 (上海市) 電子科技大学 (四川省成都市) 浙江師範大学 (浙江省金華市) 浙江大学 (浙江省杭州市) 内モンゴ農大 (内蒙古自治区呼和浩特市)
韓国	祥明大学 (ソウル市) 全北大学 (全羅北道全州市) 天安運庵大学 (忠清南道天安市) 慶北大学 (慶尚北道大邱広域市)

タイ	カセサート大学 (バンコク市) アジア工科大学 (バンコク市)
モンゴル	モンゴル人文学 (ウランバートル市) モンゴル国立農業大学 (ウランバートル市)
アメリカ	カリフォルニア州立大学LA校* (カリフォルニア州ロサンゼルス市) ノースダコタ大学 (ノースダコタ州グランドフォークス市)
ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク・フリートリッヒ・アレクサンダー大学 (ニュルンベルグ市)
フランス	オルレアン大学 (オルレアン市)
カナダ	ノーザンプリティッシュコロビア大学 (プリンス・ジョージ市)
フィンランド	東フィンランド大学 (ヨエンスウ市)
チェコ	パラツキー大学 (オロモウツ市)

部局間交流協定校 (学部を主とした交流協定校)

中国	東華大学 (上海市) チチハル大学 (チチハル市) 浙江省農業科学院 畜牧獣医研究所* (浙江省) 華南農業大学 (広州市) 遼寧科技大学 (鞍山市)
台湾	国立暨南国際大学 (南投県) 国立台北大学 (台北県) 龍華科技大学 (桃園県)
ベトナム	ハノイ大学 (ハノイ市)
韓国	釜慶大学 (釜山市)
シリア	ダマスカス大学 (ダマスカス市)
ペルー	ポントフィシア カトリック大学 (リマ)
アメリカ	アリゾナ大学* (ツソン市)
イギリス	セントラル・ランカシャー大学 (プレストン市)
キューバ	ハバナ大学* (ハバナ市)
タイ	キングモンクット工科大学 (バンコク市)
メキシコ	コリマ大学 (コリマ市)

CAMPUS

「行ってしまったら、やるっきゃない」

国際学部に入學後、パレスチナ問題に興味を持つようになりました。アラビア語を教わっていた教授からダマスカス大学への留学を勧められ、自分自身も前から中東に行ってみたかったので、いい機会だと思い留学を決めました。



ダマスカス大学の中にある語学学校に通い、世界各国の友人ができました。休みを利用しては中東の国々を旅行し、パレスチナには1カ月半いました。宇大の研究室で知るパレスチナは、抑圧された暗いイメージでしたが、そこで生きる人々の日常を感じることができ、その明るさに驚きました。英語圏に比べ苦労は多いと思いますが、「行ってしまったら、やるっきゃない」、そうやって自分を追い込んでいかないと、「日本でできないこと」をやることはできないと思います。

- ① 和田 薫 ② 日本 ③ 交換留学生
④ ダマスカス大学 (シリア)
⑤ 国際学部 ⑥ 4年

視野を広げてから職業を選択

教師を目指し教育学部に入學しましたが、海外の生活、文化を何も知らないまま「教育学部だから教師になる」と決めてしまっていたのだろうかという疑問をもちました。もっと視野を広げてから職業を選択しようと思い、留学することを決めました。父が中国語を話すことができたので身近な外国だったことと、北京オリンピックがあり国が変わる瞬間を体験できると思い、中国を選びました。

大学の授業そのものより、街中で値切りながら買い物したり、中国人の友だちと映画館に行ったり、普通の中国の生活が楽しかった。中国にはビジネスチャンスがたくさんあり、それを見つける能力が自分にあると実感しました。いまは、ビジネスチャンスを探り起こし社会に貢献できる仕事をしたいと思うようになりました。

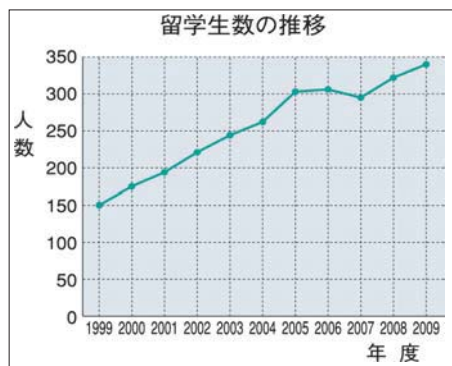


- ① 永田 和平 ② 日本
③ 私費留学生
④ 大連外国語学院 (中国)
⑤ 教育学部 ⑥ 4年

宇都宮大学留学生センター

○留学生センター概要

宇都宮大学留学生センターでは、外国人留学生に対し、必要な日本語・日本事情の教育と修学・生活上の指導助言を行うとともに、スキー研修会やホームステイ等によって留学生交流の推進を行い、また、海外留学を希望する学生に対しても、通常の相談指導に加え、海外留学説明会や海外留学体験報告会の開催等の支援を行っています。



○宇都宮大学の外国人留学生数

宇都宮大学では、平成21年10月現在で、33ヶ国・地域から352名の外国人留学生（私費留学生・国費留学生・外国政府派遣留学生等）を受け入れています。10年前に比べると2倍以上になっており、今後も外国人留学生の受け入れ体制の整備・強化を進めていく予定です。

○国際交流事業

留学生センターは、留学生と地域社会との充実した交流プログラムづくりに務めています。また、地元の国際交流団体やボランティア・グループと連携することにより、交流の機会を少しでも増やそうとしています。同時に多彩な文化交流活動を通じて、留学生と日本人学生の相互理解を深め、異なる文化を互いに尊敬する態度を養っています。

【お問い合わせ先】宇都宮大学留学生センター

TEL: 028-649-5099 FAX: 028-649-5115

E-mail: ryuugaku1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp



宇都宮大学は栃木SCと連携協力に関する協定を締結しました

宇都宮大学は、株式会社栃木サッカークラブ（栃木SC、Jリーグ2部（J2）所属）との連携協力に関する協定を締結し、平成22年2月1日、栃木SCから新井賢太郎代表取締役及び松田浩監督、本学から進村武男学長及び渡邊直樹理事が出席し、本学学長室において調印式を行いました。

本協定は、本学と栃木SC両者の資源と情報とを有効に活用し、互恵の観点に立って協力・発展を図るとともに、地域社会にも積極的に貢献するために締結するものであり、①スポーツ文化の発展に関すること、②スポーツ教育及び生涯教育に関すること、③人的資源・施設の相互利用に関すること、④地域貢献活動への相互協力に関すること、⑤研究協力に関すること、⑥その他両者の協議により定める事業に関することを協働して実施することを盛り込んだ内容となっています。



調印式の様子



左から、松田監督、新井代表取締役、進村学長、渡邊理事

宇都宮大学育成水稻新品種「ゆうだい21」が品種登録されました

宇都宮大学農学部附属農場が開発し、本学生協、ミニストップ宇都宮大学店などで白米が販売され大変ご好評いただいている「ゆうだい21」につきまして、平成22年1月14日付で種苗法に基づき品種登録されました。

品種登録されたことを受けて、1kgあたり597円で一般農家への種子粉の販売がはじまり、1月18日に新聞各社に掲載されるとわずか約2週間で販売予定数量に達しました。

「ゆうだい21」の食味は、コシヒカリより甘みや粘りが強いのが特徴です。

今後も、「ゆうだい21」を多くの農家で生産してもらうとともに、その良さを知らしてもらい、いずれはコシヒカリに変わる品種に育てていきたいと考えています。

【お問い合わせ先】

宇都宮大学農学部附属農場

〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷443

TEL: 0285-84-2424

FAX: 0285-84-2425

E-mail: fuznoujy@miya.jm.

utsunomiya-u.ac.jp



「ゆうだい21」の育成・研究を行った前田忠信名誉教授/知的財産センターコーディネーター



宇都宮大学 地域貢献

REPORT

宇都宮大学地域貢献支援事業

本学は、「地域に学び、地域に返す。地域と大学の支え合い。」という考えのもと、社会との連携活動を推進しています。前号に引き続き次の3つの事業を紹介いたします。

が読み取れるか市民に向けて分かりやすく指摘するのです。

宇都宮市に住む4000人弱を対象にした昨年実施の世論調査では、「宇都宮市が好きか嫌いか」といった質問から始まって、「行政改革の取組」「インターネットの利用」「広報媒体の活用状況」「男女共同参画」「住宅用火災警報器の設置義務」「自転車の利用」などの項目について、市民の受け止め方や考えを把握しようとしています。

たとえば、自転車を利用する目的について、「買い物など日常生活での移動」(36・5%)と「通勤・通学」(10・4%)を合わせると5割近くに達しました。ところがよく見るとその中身は、

スーパーや学校に行くのに自転車を使うのが最も便利であるからと、あるいは他の公共交通手段等が不便で自転車を使わざるを得ないからといったように、利用者の間でも積極派と消極派に分かれて

います。一方、「利用しない」(40・1%)がほぼ4割でしたが、理由として「市内での自転車は使いにくい」が57%にも達しました。反対に「宇都宮市は、自転車を使いやすい街だ」と答えたのは僅か5・9%でした。宇都宮市民は不安や不満を抱えながら、何とか自転車を使っている状況が浮かび上がります。

このように、世論調査の結果は、公共サービスをめぐるフィードバックの役割を果たしているのです。皆さん、たとえば大学キャンパスにおける自転車の取り扱いについてこの機会にじっくり考えてみてはいかがでしょうか。

【問い合わせ先】

TEL/FAX: 028-649-5181
E-mail: yujin@cc.utsunomiya-u.ac.jp
utsunomiya-u.ac.jp
URL: http://gyosamine.utsunomiya-u.ac.jp



昨年11月に宇都宮市が公表した「世論調査結果報告書」

鹿沼市交流カレッジ

教育学部 伊東明彦教授

鹿沼市交流カレッジ事業は、宇都宮大学と鹿沼市との連携事業として平成15年から始まったもので、大学生が鹿沼市の小中学生の野外体験活動をボランティアとして支援するものです。しかし、大学生にとっても単なるボランティアではなく、子どもたちと身近に接するためのノウハウを学び実践的教育力を高めたり、野外活動の指導法を身につけたりするための教育実習の場となる事業でもあります。

宇都宮市では毎年「市政に関する世論調査」を実施しています。「世論調査」というと何か堅苦しいイメージがありますが、地方自治体にとっては、今後の政策の継続や変更により市民の声を反映させ展開していくために必要不可欠な調査で、全国至るところで行われています。私はここ数年、市の世論調査の結果を分析しています。一見、無味乾燥な数字の結果から何



世論調査結果の概要が掲載された宇都宮市発行の「広報うつのみや」(平成22年1月号)

平成18年に開設した同市板荷にある「自然体験交流センター」で行われます。参加した大学生は、子どもたちと寝食を共にして野外活動を行ったり、大学側で用意した活動メニューに沿って子どもたちを指導したりしています。写真①はそのようなメニユーの一つ「イニシアティブゲーム」の指導をしている様子です。この活動では子どもたちは、大



①イニシアティブゲーム「クモの巣」に取り組む小学生



②星に重ねる星座カードを作成中の小学生

トセンターを通した学校ボランティア活動の一つとして続いており、毎年何人も学生が参加しています。今後も同様の活動を続けることが、教育学部の地域貢献として大切だと考えています。

【問い合わせ先】

宇都宮大学教育学部スクールサポートセンター
TEL: 028-649-5334・5272
E-mail: sec-1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

地域農業サポートシステム研究事業

農学部 齋藤潔教授

アメリカの州立大学では教育と研究に加えて、普及事業の部局が組織されています。大学に入学しない地域の人々にも、大学で開発した技術や知識を普及しようというのがその目的です。実は日本の大学でも、そのようなアメリカンスタイルを採り入れようという動きが戦後あったのです



アイオワ州立大学ベーカー博士を招聘して県内農家と普及員を交えてセミナーを実施

が、いろいろな事情から大学は教育と研究を受け持ち、普及事業は各都道府県が実施するという体制に分かれてしましました。



農家カウンセリングでは、家族全員の話を聞き、各種の性格診断テストに基づいて、ライフプランを作成している

この地域農業サポートシステム研究事業は、宇都宮大学と栃木県農業普及事業による相互のコラボレーション活動に取り組みすることで、教育研究、普及の一体化を目指し、地域農業の現場で起きている問題に対処できる高度なサービス提供を行うことを目的として、2003年度から共同で事業内容を企画し、継続的に取り組んできました。具体的には、アメリカから研究者を招いて国際シンポジウムを開催し本事業の基本的な方向性を議論しました(2003年度事業)。そこで定めたプランに基づいて県内の各普及部管内で普及能力向上のための普及員セミナーを実施し、2009年度には、これまでの実績をもとにステップアップした形で、農業後継者を対象とした農業ビジネススクールを開設すべく準備が行われ、農林水産省予算も獲得できて、2010年度からの実施が決定するなど、事業は順風満帆に進んできました。ところが、好景多し。昨年11月の事業仕分けによりこの予算は廃止とされてしまったのです。これにより栃木県農業普及事業の活動も見直さざるをえなくなり、本事業にとつて厳しい状況に陥ってしまいました。ところが、七転び八起きをモットーに再度のプランづくりに励んでいるところ

【問い合わせ先】
TEL: 028-649-5513
E-mail: saitojk@cc.utsunomiya-u.ac.jp

キャンパス みどころ MAP 峰キャンパス

INFORMATION

【国際学部】

国際学部出張講義
国際化社会における相互理解への関心を高めるため、栃木県内や県外の高等学校へ本学部教員が出向いて高校生に国際理解に関する講義を行っています。
国際学部社会人特別選抜学生募集
広く社会人を学部学生として受け入れるため、小論文・英語読解・面接などによる特別選抜を実施しています。
国際学研究所博士前期課程社会人特別選抜学生募集
企業、自治体等で活躍している方、国際交流・貢献活動経験者等のキャリア・アップを目指す方、社会貢献を考えている団体の世代、主婦などの社会人、大学院博士前期課程の学生として受け入れるために、口述試験等による特別選抜を実施しています。勤務条件や通学時間を考慮した授業時期や時間を設けて、夜間や土曜日等にも開講しています。
教育訓練給付制度の講座指定（国際社会研究専攻・国際交流研究専攻）
国際学研究所国際社会研究専攻生及び国際交流研究専攻生で、雇用保険の被保険者または被保険者であった期間が3年以上の方（ただし、初回に限り、1年以上の者）は、博士前期課程修了後、大学に支払った経費の20%に相当する額（上限10万円）の支給を受けられます。これは、雇用保険の給付制度です。詳細はハローワークへお問い合わせ下さい。
国際学部・国際学研究所講演会・シンポジウム
年数回、その時々に応じた講演題目で学生・教職員を対象に学外の多様な方の講演会等を開いています。一般の方も参加することがあります。平成21年度には、宇都宮大学創立60周年記念宇都宮大学国際学部設立15周年記念シンポジウムを開催しました。
国際学研究所公開授業
ローカルな問題をグローバルな視点で捉えなおし、地球市民の立場から検討する公開授業を実施しています。一般の方も参加することができます。
多文化公共圏センター
栃木県内の自治体、国際交流協会、市民団体等及び海外の交流協定校とネットワークを形成し、グローバル化に関わる課題に関する研究や実践的活動を行います。
問い合わせ先 国際学部総務係 TEL028-649-5164 FAX028-649-5171
E-mail koksomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

【教育学部】

フレンドシップ事業（児童・生徒）
学生と子どもたちが直接ふれあい、体験を通して実践的に学ぶ機会を提供しています。科学実験、野外活動、環境教育、まちづくり活動を行っています。
授業見学（高校生及び保護者）
高校生に教育学部をよりよく知ってもらうために学部の授業見学を開催しています。
大学院教育学研究科授業の夜間・休日等開講
大学院教育学研究科では、現職教員や社会人の専修免許状取得や自主的な研修に役立てるため、多数の授業科目を夜間、土・日曜日、長期休業期間に開講しています。特に、カリキュラム開発専攻と特別支援教育専攻は、夜間、休日等の授業を履修することによって、勤務を続けながら修了することが可能です。
音楽によるアウトリーチ活動
教育学部音楽教育専攻では、授業のなかで「音楽によるアウトリーチ」活動を行っています。この活動は、地域の小・中学校、高校、施設などに出向き、出前授業（交流授業）出前コンサート、ワークショップなどを学生自身が企画・実施しているものです。内容はそれぞれの学校等の希望をもとに考えていきます。この活動にご興味があり、「ぜひうちの学校（施設）にも来て欲しい！」とお考えの先生がいっぱいいらっしゃいましたら、是非ご連絡ください。
MOMENTS MUSICAUX - 音楽教育講座の教員による演奏会
教育学部音楽教育講座の教員（教授・准教授）の出品・出演による演奏会「MOMENTS MUSICAUX」シリーズを、毎年開催しています。教育に携わるとともに、それぞれ異なるキャラクターを持った音楽家である本講座の教員たちが、日頃の研究成果を地域の皆様にご披露する、大学と地域との文化交流の場です。
問い合わせ先 教育学部総務係 TEL028-649-5242 FAX028-649-5244
E-mail kysisomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

【農学部】

農学部出張講義
宇都宮大学農学部における教育研究への関心及び「農」に関する知識をより深めてもらうため、本学部教員が高等学校へ出向き、生の講義をお伝えしています。
農学部シンポジウム
年数回、学生や教職員、学外者を対象として、様々な分野の国内及び国際シンポジウムを開催しています。
アグリカレッジ
農学に対する向学心を深めるため、「農業を科学する」をメインテーマとして高校生を対象に講義を行う、県立農業高校と宇都宮大学農学部の高連携事業の一つです。
スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）及びサイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）
文部科学省が開始した事業であり、そのお手伝いとして宇都宮大学農学部では、研究施設や教育施設の開放及び公開講座を行っています。
アグリ支援機構
日常にある「農」に関する疑問や講演・技術指導及び受託研究や共同研究の相談などをお受けしています。
問い合わせ先 農学部総務係 TEL028-649-5398 FAX028-649-5401
E-mail nousomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
「お米と果物とミルクの不思議体験教室」（小学生と保護者）
春から秋にかけて4～5回実施しており、田植えや収穫から収穫まで、また牛の乳しぼりなども体験できます。
オープンエコファーム（開放農園）事業（社会人等）
有機栽培に取り組もうとする農家等に対して、野菜、畑作物等の有機農業を実践・実習及び指導します。



複合施設

小・中学校教員のための園芸技術講習会
学校の花壇や空き空間を生かした植物栽培の基礎知識やノウハウの伝授、さらにはコンサルティングまで、現場教員の皆さんの広い要望に対応しています。
問い合わせ先 附属農場 TEL0285-84-2424 FAX0285-84-2425
E-mail fuznoujy@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
「森のがっこう」（小学生）
夏休みに1泊2日で行う、森林（里山）における動物観察、林業体験とおおしと自然との触れ合い体験ができます。
問い合わせ先 附属演習林 TEL0287-47-0158 FAX0287-47-0366
E-mail fuzensyu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

1【留学生センター】

外国人留学生に対し、必要な日本語・日本事情教育及び修学・生活上の指導助言を行うとともに、留学生交流の推進や海外留学を希望する学生に対する指導助言を行っています。
交流協定締結校への留学
本学は、中国、韓国、アメリカをはじめ多くの外国の大学と交流協定を締結しています。交流協定校への留学を希望する場合は、積極的にご相談ください。
問い合わせ先 学務部留学生担当 TEL028-649-5099 FAX028-649-5115
E-mail rryuugaku1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

2【附属図書館】

附属図書館では、地域に開かれた知の拠点として、当館が所蔵する教育研究のために収集した貴重な学術情報資源を、地域の皆様の生涯学習を支援するために広く開放しています。
問い合わせ先 学術研究部学術情報課 TEL028-649-5130 FAX028-649-5138
E-mail tossoumu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

3【放送大学栃木学習センター】

4【複合施設・学務部】

学務部事務室（修学支援課、学生支援課、留学生・国際交流課、入試課）、コンビニ（ミニストップ）、郵便局が入居しています。

5【学生会館】

学生食堂や売店、多目的ホールなどがあります。

6【総合メディア基盤センター峰分室】

レポート作成には必須の場所！

7【キャリア教育・就職支援センター】

キャリア教育
1・2年生のうちから社会の状況に目を向けるとともに、自分や自分らしい生き方について考え、学生生活の目標を立て具体的な進路・職業選択ができる目を養います。
進路・就職相談
「自分の将来について」「自分に向いている職業は？」「エントリーシートの書き方」といったいろいろなる相談に対応しています。



フランス式庭園

全学プログラム行事
1・2年生のうちからキャリアや就職について考え、体験してもらうために、全学の学生を対象としたキャリアフェスティバル、学生支援プロジェクトといった行事を行っています。
インターンシップ
企業や官公庁など、実際の職場で仕事を体験します。社員と同じような分野で働くなかで、企業・仕事・働くことを理解するものです。
就職ガイダンス・セミナー
合同企業・公務員等説明会、就職面接実践講座、自己理解セミナー、教員採用対策セミナーなど就職活動を行う学生に役立つプログラムを実施しています。
就職情報の提供
就職支援システム（UU Career Navi）（下記ホームページから入れます。）を利用して、企業情報や求人票の検索、進路相談・就職ガイダンスの予約ができます。
その他、先輩へのアドバイス、就職関連図書・雑誌などを取りそろえています。
問い合わせ先 TEL028-649-5104 FAX028-649-5115
URL: http://www.career.utsunomiya-u.ac.jp

8【共通教育センター】

幅広い教養と豊かな人間性を養成する共通教育の企画運営をしています。ことに、「浴びる英語」をテーマとした英語教育プログラム（EPUU）の運営に力を入れています。
EPUU シアター
37席を備えた映画館。友達グループでいつでも観たい映画が観られます。ただし英語の映画のみ。とにかく英語を聴きましょう！
EPUU クリニック
予約をすれば、1人20分間ネイティブスピーカーから英語の個人指導を受けられます。とにかく英語で話しましょう！
EPUU リーディングラボ
英語の本が5000冊。簡単な絵本から専門の入門書まで。とにかく英語で読みましょう！
EPUU DVDラボ（図書館3階）
英語の映画DVDが500枚。自分の好きな映画を選んでください。それを教材にして学ぶPCが3台。とにかく映画で英語を学びましょう！
EPUU CALL教室
授業料が2室、自習用が1室。TOEFL・TOEICの準備勉強、留学準備、発音矯正等々、全ての教材がPCに組み込まれています。とにかく英語を学びましょう！
問い合わせ先 TEL028-649-5091

9【保健管理センター】

一人暮らしの学生の強い味方。無料で診察、薬を処方してもらえます。

10【生涯学習教育研究センター】

公開講座（学生・一般市民）
平成22年度は72講座が開講予定となっており、どなたでも受講できます。詳細は別途発行している「公開講座開催案内」及び生涯学習教育研究センターホームページに掲載しています。
社会教育主事講習（学生・教員免許保有者等）
社会教育主事になりうる資格を得るための講習（文部科学省主催）を行っています。
問い合わせ先 TEL028-649-5144 FAX028-649-5145
E-mail : syougai@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

11【雑草科学研究センター】

公開セミナー（学生・一般市民）
センター教員、客員教授や国内外の著名な研究者を講師として、雑草学や都市緑化、生活環境の修復・保全に関連した内容で開催しています。
シンポジウム（企業人・一般市民）
国内外の著名な研究者を招き、植生マネジメントに関するシンポジウムを開催しています。
センターの一般公開（高校生・教員・一般市民）
大学のオープンキャンパス時にセンター研究棟、温室等の施設見学とともに研究内容の紹介を行っています。同時に一般市民の方も対象にしています。強さ雑草や寄生雑草、住居環境の緑化に役立つ植物の展示を行い、雑草が私たちの生活にどのような影響を与えているか分りやすく説明します。当日は「雑草何でも相談室」を設けて雑草に関する相談に応じます。
問い合わせ先 TEL028-649-5148 FAX028-649-5155
E-mail zasso@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

12【バイオサイエンス教育研究センター】

セミナーやシンポジウム（学生・教職員・一般市民）
本センターの各研究領域と関係の深い国内外の研究者や地元企業の研究者が講演します。
バイオ研究支援センターの一般公開
バイオサイエンスに関する疑問や講演・技術指導、センターの見学などをお受けしています。
科学実験講座（中学生）やバイオテクノロジー体験講座（高校生・高校教員）、出前授業（高校）植物やDNAに関する講義と実験を行います。
遺伝子組換え実験講習会、動物実験にかかわる教育訓練、放射線障害防止のための教育訓練
安全にバイオ研究を実施するため、法令等に定める教育・訓練を行っています。
問い合わせ先 TEL028-649-5527 FAX028-649-8651
E-mail : c-bio@cc.utsunomiya-u.ac.jp

13【旧書庫】

大谷石造りの古い建物

14【講堂】

大正13年建築。映画の撮影に使われることもある趣のある建物。

15【武道場】

スポーツジム並のトレーニングマシンがあります。

16【体育館】

17【第2体育館】

18【サークル棟「コスモス」】

天気の良い日はみんなで集まって、お昼ごはんやおしゃべり！バンドが演奏しているときもありです。

19【まなびの森保育園】



講堂



キャンパス みどころ MAP

陽東キャンパス

INFORMATION

【工学部】

工学部体験教室（小学生～高校生）
実験や授業をとおして身近に工学に触れることによる知的啓蒙を進めています。

産学連携シンポジウム（一般市民）
産学連携の積極的推進を図るためのシンポジウムを開催しています。

最先端技術特別講演会（学生・教職員・一般市民）
情報工学分野を中心とした最先端技術を外部の著名な方々を講師に招いて、分かりやすく解説します。

工学研究科社会人特別選抜入試制度
社会人を大学院博士前期課程及び博士後期課程の学生として受け入れるために、研究計画書による口述試験・書類審査等の特別選抜を実施しています。勤務条件を考慮した授業時期や時間を設けて、夜間や土曜日等にも開講しています。

工学研究科外国人留学生特別選抜制度
留学生を大学院博士前期課程及び博士後期課程の学生として受け入れるために、研究計画書による口述試験・書類審査等の特別選抜を実施しています。

問い合わせ先 工学部総務係 TEL028-689-6005 FAX028-689-6009
E-mail kousomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

1【学際先端システム学専攻棟】

ここに工学部学生係があり、各種手続きや相談ができます。



学際先端システム学専攻棟及びアカデミア・ホール

2【アカデミア・ホール】

3【留学生センター工学部分室】

4【保健管理センター分室】

具合が悪いときは休養したり、薬を処方してもらえます。

5【工学部附属ものづくり創成工学センター】

インターンシップ
工学部と工学研究科の学生を対象に推進しています。

学生プロジェクト支援
ものづくりプロジェクトを学生が企画して申請すれば、審査して支援します。昨年はFormula-SAE、コンクリートカー、電気自動車、つくばチャレンジの4つのプロジェクトを支援しました。

機械使用ライセンス制度
学生や教職員がライセンスを取得すれば、工学部の機械加工設備を使って自由にものづくりができます。

ものづくり技能セミナー
栃木県の高度熟練技能者「とちぎマイスター」からものづくりの技を見せていただきます。

子どもものづくり体験教室
小中学生を対象にしたものづくり体験教室を開催しています。

問い合わせ先 TEL/FAX 028-689-7070 E-mail icree@cc.utsunomiya-u.ac.jp
URL http://www.icree.utsunomiya-u.ac.jp



Formula-SAEプロジェクト



陽東キャンパス前の通り

6【地域共生研究開発センター】

金曜イブニングセミナー（一般市民・企業人・学生・教職員）
最先端の科学技術や社会の出来事に関する話題を、分かりやすく講義し、楽しみながら学ぶ機会を提供しています。年2～4回開催。

各種講演会、研究会（一般市民・企業人・学生・教職員）
研究会の成果発表会や時代にマッチした技術、トピックスに関する研究会を開催しています。

技術相談、共同研究、ベンチャー起業家の窓口
問い合わせ先 TEL028-689-6316 E-mail chiki@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

7【ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（地域共生研究開発センター-VBL部門）】

VBL部門成果発表会（一般市民・企業人・学生・教職員）
大学院VBL部門の研究プロジェクトの研究結果を大学内外に発表し、産学連携の促進の場を提供しています。

8【知的財産センター】

知的財産権セミナー（一般市民・企業人・学生・教職員）
知的財産権に関する教育・啓蒙の場を提供しています。

弁理士チャレンジ講座（一般市民・企業人・学生・教職員）
弁理士受験のための勉強法などを解説しています。

特許相談（一般市民・企業人・学生・教職員）
特許出願相談、職務発明相談、共同研究契約など知的財産に関するあらゆる相談に応じます。

問い合わせ先 TEL028-689-6324 E-mail chizai@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

9【オプティクス教育研究センター】

オプティクス教育研究セミナー（一般市民・企業人・学生・教職員）
最先端の光学技術に関するセミナーを開催しています。（年6回程度）

海外短期研究留学制度
工学研究科前期・後期課程に在籍する学生を対象として、国際交流協定校 アリゾナ大学（米国）、東フィンランド大学（フィンランド）等への短期研究留学の研究活動を推奨し、国際的視野に富む高度技術者及び研究者の育成を行っています。

問い合わせ先 TEL028-689-7074 E-mail core@cc.utsunomiya-u.ac.jp



オプティクス教育研究センター

10【図書館分館】

工学系の図書や雑誌がたくさんある！

11【総合メディア基盤センター】

情報通信関係特別講演会
情報技術の新しい動向や最新技術についての講演会を実施しています。

問い合わせ先 TEL028-689-6340 FAX028-689-6342
E-mail sec@cc.utsunomiya-u.ac.jp

12【石井会館】

学生食堂や売店が入っています。峰キャンパスの学生食堂と味比べをしてみませんか？

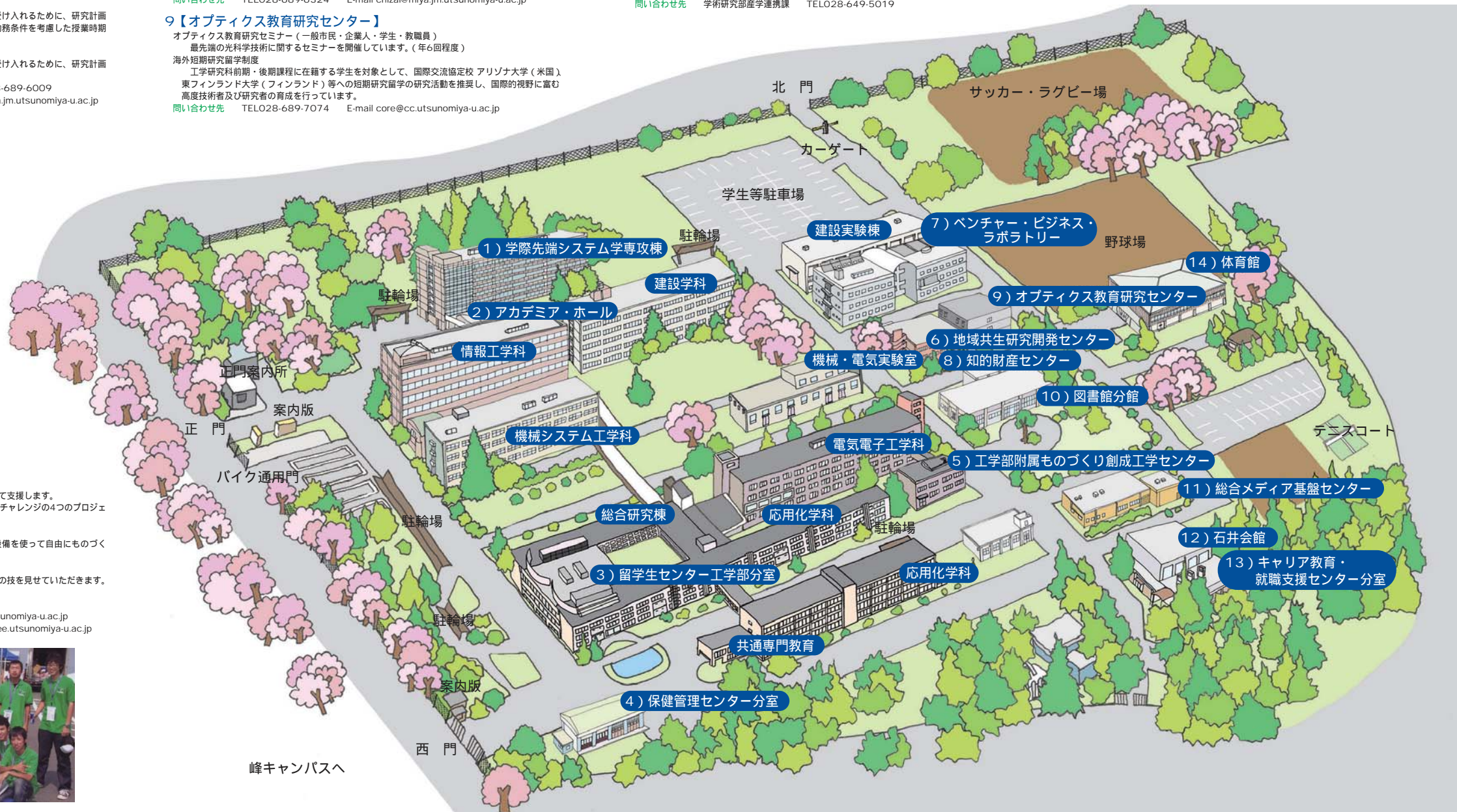
13【キャリア教育・就職支援センター分室（進路相談室）】

14【体育館】

その他にも宇都宮大学には様々な取組があります

栃木科学・技術シンポジウム（企業人・一般市民）
栃木県や宇都宮市・県産業振興センターなどと共に新しい科学技術についての普及啓蒙を図るために、講演会やパネル討論などを実施しています。

問い合わせ先 学術研究部産学連携課 TEL028-649-5019



峰キャンパスへ

科目等履修生制度
生涯学習の推進を図ることを目的とし、社会人等に対して学習機会を拡大する観点から設けられた制度です。特定の授業科目の履修を希望する者に対して、授業に支障のない範囲において選考の上、授業科目の履修を許可しています。また、特定の専門事項について研究指導を希望する場合には、研究生制度があります。

問い合わせ先 学務部修学支援課 TEL028-649-5168

社会人特別選抜入学試験
一度社会に出て、専門分野の必要性から大学入学を希望する人、また生涯学習という観点から、定年を迎え再教育を受けて知識の習得を目指す人を受け入れています。

問い合わせ先 学務部入試課 TEL028-649-5112
工学部学生係 TEL028-689-6003（大学院工学研究科）

オープンキャンパス
毎年夏季に、高校生・受験生及び一般市民の方を対象としたオープンキャンパスを開催し、模擬授業、実験体験、研究室・施設公開、個別入試相談、サークルデモンストレーション等を行います。平成22年度は8月1日（日）に開催します。

問い合わせ先 企画広報部企画広報課 TEL028-649-8649

大学祭（峰ヶ丘祭）
毎年11月に、大学祭実行委員会（学生団体）主催による大学祭が実施され、本学の教育・研究、サークル活動などの各種の展示、研究発表、活動報告などを公開し、また各種シンポジウム、模擬店などを開催しています。平成22年度は11月20日（土）～22日（月）に開催されます。

問い合わせ先 学務部学生支援課 TEL028-649-5097



陽東キャンパス北側に位置する「ベルモール（総合ショッピングセンター）」



田巻松雄研究室【国際学部国際社会学科】

学生から

この研究室を選んだ動機は？

佐藤：編入前から、田巻先生の研究室に行きたかったからです。先生の授業を受け、魅力的だったので絶対選ぼうと思いました。最終的に選んだ理由は先生の人柄。アギレ：一番はフィーリング。そして先生の研究室はひとつの分野にこだわらないからです。井出：ズバリ、私達が生きて行かなければならない現代社会を学びたいと思ったから。直峯：授業を通して日本の社会に興味を持ったから。また、単純に田巻先生の人柄に親しみを感じたから。鶴賀：研究分野に加え、



平和観音の前で記念撮影

先生の物事の捉え方や見方が面白く感じこの研究室を選びました。ハラ：研究者として尊敬できるから。齊藤：講義で社会や人間は不平等であるという内容を扱っていて、このような視点に強い関心を持った。

卒論の構想は？

井出：近年日本で問題になっている「自殺者問題」をテーマに、東アジアの韓国や台湾との比較もしながら、その要因や現代の姿を扱っていきます。アギレ：日本における「セクシャルマイノリティ問題」です。社会でどのような辛さを経験し、それを軽減させるにはどうしたらいいのかを研究します。鶴賀：「日本における外国人研修生の現状と彼らを取り巻く問題や課題」を知り、その解決法について考えたい。直峯：日本の「自殺者問題」を扱い、国際学を絡めたテーマで書きたいと思います。ハラ：「発展途上国のナショナリズムと貧困社会によって子どもたちの夢が阻害されている現実」を取り上げ



研究室の様子

たい。佐藤：「犬の殺処分について、ペットに対する日本人の価値観と世界（国はまだ特定していない）の価値観等」。齊藤：私のテーマは「ホームレス支援と音楽の関わり」です。現場に足を運びたい。

やるぞ共同体験？

卒論以外にも、出来るだけ共同体験をするのが、ゼミの方針。で、齊藤と井出は早速「栃木再発見」という田巻先生のアイデアにより、先日先生と一緒に大谷に行ってきたので、その報告・向かったのは、宇都宮市大谷町。第二次世界大戦の戦没者の弔いにと像立された平和観音、「大谷石」と呼ばれる石材の地下採掘場、そして日本最古の石仏と言われる大谷観音です。約27メートルもの高さがある平和観音はとても優しい顔立ちで大谷町を見下ろしており、一面全て石で出来た巨大な地下採掘場寒い。このときは気温約2度は広大で、深い感動を覚えました。しかし、何よりのメインである大谷観音は、千年以上前に作られたとは思えない程素晴らしく、思わず見入ってしまうほど。他にも、縄文最古の人骨や土器等、ここだけでは書ききれない魅力が沢山ありました。隠れたスポット、侮りがたし、大谷……。

平成22年度国際学部国際社会学科4年次生7名

教員から

僕の専門は社会学で、下層問題、東アジアにおける人の国際移動、外国人児童生徒の教育問題などを調査研究しています。卒業研究では、学生たちは自由な問題関心と発想に基づいてテーマを決め、卒論を書きます。今年も、元気でパワフルな学生が集まってくれました。僕自身も多くを学べる楽しみな1年となりそうです。目指せ！「満足のいく卒論」、やるぞ！「共同体験」、指導するぞ！「酒の上手な飲み方（無理そうですが……）」、そして個人的には、忙しにかまけないで「授業のレベルアップを！」。

国際学部教授 田巻松雄



森林生態学・育林学研究室【農学部森林科学科】

学生から

宇都宮大学の森林科学科には9つの研究室があり、木を伐採する機械について勉強する研究室や、キノコのバイオテクノロジーを勉強する研究室もあり、一言に「森林」といっても、非常に幅広く分野が存在します。その中で、僕の所属する森林生態学・育林学研究室では、「森林を守る」ということを勉強する研究室であるといえます。

この研究室の最大の特徴は、実際に森林の中に入ってデータを直接採ってくることです。例えば樹木の太さや高さを測定し、順調に成長しているかどうかを調べるもの、スギ・ヒノキの伐採跡地にどんな植物が生えてくるかを調べるもの、使われなくなってしまった森林の中にどんな種類の虫が生息しているかを捕獲して調べるものなどがあります。僕たちはこれら



落ち葉堆肥づくりのための落ち葉採集の様子

を「フィールドワーク」や「調査」と呼んでいます。

近年、地球温暖化をはじめとする環境問題が叫ばれる中、僕たちの研究室は、調査を通じて、自然が発しているメッセージを受け取り、それを人間が理解できる形に表現するといったいわば翻訳者のような役割を担っているのです。ところが、この「調査」を巡って毎年思いもよらない様々なドラマが生まれます。例えば、茂木町での里山管理と植物の種類との関係を調べた研究では、かなり奥深くまで森の中に侵入していきます。この時に、イノシシやスズメバチといった僕たちの恐怖心を煽る「天敵」と遭遇することは少なくありません。

那須烏山市での落葉堆肥生産に適した森林の構造を調べた研究では、実際に落ち葉を掻いて落葉堆肥を作る際に、落葉の中にカブトムシの幼虫が21.7kgも含まれていたこともありました。高原山での急斜面地に植林されたス



ブナの木に登って調査している様子

ギ・ヒノキ林内の植物の種類を調べた研究では、クマイチゴが足元に密生していて、歩きにくかったため、伐り株の上で休憩しようとしたら足を滑らせて斜面を三回転半も転げ落ちたという人もいます。

他にも高原山のブナ林でのブナの種を食べる蛾の種類を調べる研究では、樹高25mもあるブナに命綱をつけて登ります。これらの調査はポイントまで比較的距離が短いので日帰りです。しかし、調査の規模が大きい場合や、調査地点まで遠い場合は、宿泊する場合があります。研究室名のバックの写真にもなっている山形県小国町の国内最大級のブナ林の研究では、満天の星空の下、テントを張って寝泊りしたこともありました。

今考えてみると、どれも楽しい思い出です。しかし、忘れてはいけないことは、これらは全てチームで行うということです。そのため、僕たちはチームワークが大切であるということも学びます。調査を通じて成長した僕たちのマタビのツルのような絆は、卒業しても、長く、強く結ばれていることでしょう。

平成21年度大学院農学研究所修了 染谷潤一郎

教員から

私たちの研究室は、森林の樹木を主な対象として、どのような仕組みで森林が世代交代しているのかについて研究を行っています。この中で、栃木県と山形県のブナ林やアジアの熱帯林に調査区を設け、長年に亘って、その中の木の成長、生き残り、結実周期、実を食べる昆虫と結実周期との相互関係などを調べ、森林の基本的な仕組みの解明に取り組んでいます。

一方、スギやヒノキの人工林や里山の放棄された雑木林などに利用されることで維持されてきた森林を、これからどのように育てていくのかといった応用的な課題にも取り組んでいます。このように、奥山から里山まで幅広い森林をフィールドとして、野外での生き物の観察・実験など、徹底した現場重視のアプローチを通して日夜研究に励んでいます。

農学部教授 大久保達弘
助教 逢沢峰昭

授業の合間（空きコマ）を有効に過ごすための秘訣や場所

国際学部

- 課題やしポートのために本を読む。それに尽きる。(4年♂)
- 保健管理センターで身長や体重を測る。(3年♀)
- 附属図書館のコンピュータ室でサークルののためのパフォーマンスを検索。(1年♀)
- 生協食堂で友人とおしゃべり。(1年♂)
- 宿題を進める。テスト勉強をやる。(4年♀)
- 静かな所を探して仮眠をとる。(4年♀)
- スーパーで夕飯の買い物。(2年♀)
- 峰ヶ丘祭などのイベントの準備。(2年♀)
- 電話代などを払いに行く。(3年♀)

学生アンケート

宇大生は今は



教育学部

- 研究室を訪れ、先輩の話を聞く。(2年♀)
- 音楽棟でピアノを弾く。(3年♂)
- 友達と同じ時間の空きコマなので、一緒に話したい、次の授業の予習をしたい。(1年♀)
- 控室で友達と話したい、生協食堂でレポートをやる。(2年♂)
- 控室で授業準備。(3年♀)
- 構内のミニストップでガールズトーク！(3年♀)
- コンピュータ室でレポートをやる。(1年♂)
- 気分転換に公園に行く。(4年♀)
- 友達とおしゃべりをやる。(1年♀)
- 授業に集中できるように、空きコマに仮眠！(4年♂)



工学部

- 研究室配属後は、とにかく研究室にいる。(4年♂)
- 近くにある総合ショッピングセンター、ベルモールに行く。(2年♂)
- 総合メディア基盤センターでパソコンをいじる。(2年♂)
- 生協食堂にいて友達とレポートをやる。(2年♂)
- 友達の車で、おたみな太郎(宇都宮東店)でバイキング！(院1年♂)
- 大学の近くに住んでいる友達の家におじゃまする。(1年♂)
- 学生メディアルームでレポートとか課題プリントとかをやる。(2年♀)
- ベルモールのフードコートで時間を潰す。(3年♂)
- 附属図書館でレポートをやる。(2年♀)
- 家に戻る。(2年♂)

農学部

- 附属図書館での読書は最高。(3年♂)
- 空きコマを作らないように授業を組む。もし空きコマが出来たら…。附属図書館や生協食堂で課題をやった、スケジュール確認をやる。干した洗濯物をとりに帰る。(4年♀)
- 授業後に時間をつくりたいので、レポート課題をやる！！附属図書館なら集中出来るし、他にも課題をやっている学生が多いので、刺激ももらえる。(4年♂)
- 近くの本屋へ行き面白そうな本を探す。(4年♂)
- 構内にあるミニストップに行き雑誌を読んだり、空を見たいしてる。(3年♀)
- 空きコマは、次の授業の準備をやるため附属図書館で勉強。(2年♀)
- 1コマは90分と意外に長いので、家に戻って家事を済ませる。(4年♀)
- ミニストップがお気に入り。学生ラウンジもあって、居心地が良い。(3年♀)
- 友達とマンガの話で盛り上がる。(3年♀)
- キャンパス内のミニストップでひまつぶし。(3年♂)



* 学年はアンケート回収時点(2010年2月)

Circle pin-up

「クチュリエール」は、フランス語で「仕立て屋」という意味。私たちクチュリエールは週1回、楽しく手芸活動をしています。手芸を楽しむ仲間がたくさんいたらいいな、と思い始めたサークルですが、今では、物づくりを通して様々な人々と出会い、交流を深めることもできると思っています。和気あいあいと会話も楽しみつつ、手芸も楽しめるサークルです。



活動内容は縫い物、編み物、ビーズアクセサリーなどをそれぞれ思い思いにやっています。パッチワークでリュックを作成している人もいれば、雑巾を縫ったり、シュシュや消しゴムはんこを作ったり、様々です。自分で作ったものを身につけたり、使ったりするのは格別です！友達にマスコットをプレゼントした時は、「手づくりの感じがでて面白い」

サークル紹介

クチュリエール(手芸サークル)



と喜んでもらえました。

活動を始めてからまだ約1年ですが、昨年の峰ヶ丘祭では模擬店を出して自分たちの作ったアクセサリーや雑巾などを販売し、完売。大成功でした！私たちは始め、縫い物や編み物などがすべてうまく出来ていたわけではありません。メンバーが誰ひとりとして出来なかったレース編み、「峰ヶ丘祭で販売するんだ！」と必死に学びました。このように、出来ないこと、新しいことにも挑戦しています。これからは、「服を作りたい」「作ったアクセサリーを販売したい」などの目標を持っています。「出来そうな気がする」という気持ちから色々なことができるようになるサークルです。

興味があるかもという方、ぜひ手芸サークル「クチュリエール」へ遊びに来てみてください！

代表：大島千和(農学部森林科学科3年) 連絡先：chiharu@kis-lab.com

第1回宇都宮大学ホームカミングデー



**第1回
ホームカミングデー**

**平成22年
4月29日(祝)**

趣旨

宇都宮大学は、新制大学として発足して以来、創立60周年を迎えました。この間を含め、延べ5万人を超える同窓生の皆様方が本学を巣立っていきました。この60年という節目を機に、同窓生の皆様方が、懐かしい恩師や旧友の方々と旧交をあたため、かつ、宇都宮大学の歴史と伝統、現在と未来像について、教職員や在学生らと語り、交流と絆を深める機会となりますよう、「第1回宇都宮大学ホームカミングデー」を開催することをいたしました。

**峰キャンパス
陽東キャンパス**

主催: 宇都宮大学
共催: 国際学部同窓会
大学院国際学研究所同窓会
教育学部同窓会
工学部同窓会
農学部峰ヶ丘同窓会
協力: 宇都宮大学消費生活協同組合

○お問合せ先○

第1回宇都宮大学
ホームカミングデー実行委員会事務局
E-mail: kkikaku@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
Tel: 028-649-8647
Fax: 028-649-5026

無料送迎バスのご案内
【運行スケジュール】※約10分間隔で運行

8:00~11:30	JR宇都宮駅東口 → 峰キャンパス
12:10~12:40	峰キャンパス → 陽東キャンパス
15:10~17:00	陽東キャンパス → JR宇都宮駅東口

●詳しくは第1回宇都宮大学ホームカミングデーホームページ
URL <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/hcd/index.html>

参加無料

公開講座

平成22年度は72講座が開講予定となっております。どなたでも受講できます。

- 【無料講座】
「現地で学ぶ宇都宮学」等、全11講座
 - 【国際理解・外国語】
「あの韓流作品の舞台と背景3」等、全11講座
 - 【コミュニケーション】
「声とことばの表現教室」等、全16講座
 - 【芸術・文化】
「能を楽しむ」「書道」等、全22講座
 - 【旅】
「アイヌ文化を学ぶ北海道の旅(道央編)」等、全3講座
 - 【地域を学ぶ】
「大木須の里山で米づくり」等、全9講座
- *詳細は、4月発行予定の「公開講座開催案内」、生涯学習教育研究センターホームページをご覧ください。
*講座は予定であり、変更になる場合があります。
*5月11日(火)より受講受付を開始します。

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学生涯学習教育研究センター
TEL028-649-5144
<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/syougai/centerhp/index.html>

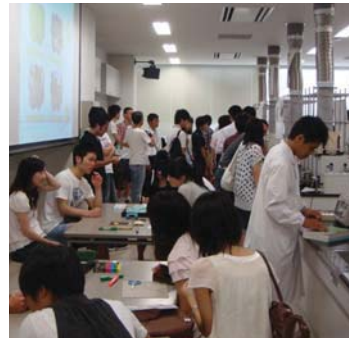
オープンキャンパス(全学)

入場無料

日時: 8月1日(日) 9:30~
場所: 峰キャンパス(国際学部・教育学部・農学部)
陽東キャンパス(工学部)
内容: 模擬授業、実験体験、研究室・施設公開、個別入試相談、サークルデモンストレーションなど
*詳細は随時ホームページに掲載します。
URL <http://www.utsunomiya-u.ac.jp/>



- ◎宇大にどんな授業があるのかな?
学部ごとにたくさんの模擬授業を用意しています。わくわくするような授業を発見!
- ◎学生スタッフがサポートします。
大学の構内は広い!「教室の場所が分からない!」「どこから見たらいいのか分からない!」そんなときは、スタッフに声をかけてください。
- ◎宇大生のキャンパスライフは?
サークル活動をデモンストレーションでチェック!
こだわりのメニューを学生食堂でチェック!
学生スタッフにキャンパスライフについて聞いてみよう!



●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学企画広報課
TEL028-649-8649 FAX028-649-5026 E-mail plan@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

附属学校園公開研究発表会

- 【附属小学校】研究主題「学びを楽しむ子どもを育てる」
～子どもが学びの楽しさを感じる授業を創る～
●6月1日(火) 生活科・総合的な学習の時間・道徳・特別活動・外国語活動の研究授業、各部会、全体会
講演会: 清水 静海先生(帝京大学大学院准教授)
- 6月3日(木) 算数科・理科・音楽科・家庭科の研究授業、各部会、全体会
講演会: 奈須 正裕先生(上智大学総合人間科学部教育学科教授)
- 6月4日(金) 国語科・社会科・図画工作科・体育科の研究授業、各部会、全体会
講演会: 児島 邦宏先生(東京学芸大学名誉教授)
- 【附属中学校】研究主題「新しい時代に対応した授業のあり方を考える」
～活用型学習活動の実践を通して～
●6月24日(木) 各教科研究授業、分科会、全体会、講演会
- 【附属幼稚園】研究主題「仲間の一員としての『私』あり方」
●10月21日(木) 公開保育・保育研究
分科会○幼稚園の生活と規範
○小学校への接続 ○協同する経験

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部附属小学校 TEL028-621-2291
宇都宮大学教育学部附属中学校 TEL028-621-2555
宇都宮大学教育学部附属幼稚園 TEL028-622-9051

オープンキャンパス(附属特別支援学校)

本校では、教育内容や施設について広く御理解をいただくために、オープンキャンパスを実施しております。当日は、学校参観や入学相談等がありますので、ふるって御参加ください。
日時: 第1回 7月7日(水) 9:30~12:00
第2回 9月8日(水) 9:30~12:00
内容: 小学部、中学部、高等部の授業参観
・入学相談(個別)
・校舎内外施設設備の参観
日程: 受付 9:00~
日程説明 9:30~
自由参観・入学相談 10:00~
その他: 駐車場が満杯になった場合は、本校玄関前ロータリーにも停められます。お子様にもおいでいただけます。

入場無料

●お問い合わせはこちらまで●
TEL028-643-1481(教育相談:職員室直通)
TEL028-621-3871/E-mail kifyg@cc.utsunomiya-u.ac.jp

のびのび親子広場(全5回)

～未就園児子育て支援事業～ 場所: 附属幼稚園
第1回 平成22年5月17日(月) 13:30~15:00
第2回 平成22年6月7日(月) //
第3回 平成22年7月5日(月) //
第4回 平成22年8月30日(月) //
第5回 平成22年9月27日(月) //
*申込方法、および詳細はホームページでご確認ください

参加無料

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部附属幼稚園 TEL028-622-9051

保育を語る会(全4回)

テーマ「仲間の一員としての『私』の在り方」 *参加費: 200円(資料代)
第1回 平成22年7月10日(土) 9:00~協議会
場所: 栃木県幼児教育センター(宇都宮市瓦谷町1070)
第2回 平成22年9月4日(土) 9:00~協議会
場所: 栃木県幼児教育センター(宇都宮市瓦谷町1070)
第3回 平成22年12月4日(土) 9:00~保育公開と講演
場所: 附属幼稚園 講師: 小田 豊先生
第4回 平成23年2月5日(土) 9:00~保育公開と分科会
場所: 附属幼稚園

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部附属幼稚園 TEL028-622-9051

作業製品販売

高等部生徒が心を込めて作製した製品を販売しております。
場所: ラパーク長崎屋宇都宮店3階フリーマーケットボックス(宇都宮市馬場通り2-3-12)
作品: 陶芸品、織物、縫製品など

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部附属特別支援学校高等部
宇都宮市宝木町1-2592
TEL028-621-3871

運動会 **入場無料**

ダンス、4色対抗リレー、応援合戦!
日時: 6月12日(土) 9:20~14:20
場所: 宇都宮大学教育学部附属特別支援学校 校庭(雨天順延)
内容: 小学部児童、中学部・高等部生徒の演技
*受付でプログラムをお受け取りください。

●お問い合わせはこちらまで●
宇都宮大学教育学部附属特別支援学校
宇都宮市宝木町1-2592
TEL028-621-3871

研究 Keyword

パワーエレクトロニクス

エネルギー最適利用のキーテクノロジー

宇都宮大学大学院工学研究科准教授 船渡 寛人



PROFILE

プロフィール

東京電力株式会社を経て、横浜国立大学大学院工学研究科電子情報工学専攻修士、博士（工学）。専門分野は電力変換回路、新エネルギー、電気自動車など電気エネルギーの効率的発生と利用。

大学院工学研究科准教授 船渡 寛人

現代社会を支える「パワーエレクトロニクス」

平成21年の年間新車販売台数トップはハイブリッドカーでした。数年前までは想像もしませんでした。数年間、それだけ環境問題、エネルギー問題が重要視されているという証拠でしょう。エネルギー問題において電気エネルギーの発生・輸送・消費のどの段階でもパワーエレクトロニクス技術（以下、パワーエレと呼びます）が大きな役割を果たしています。どちらかと言うと「緑の下の力持ち」であり表舞台に出ないパワーエレですが、産業界では「産業界の米」と言われるほど必要不可欠な技術になっています。私の研究室では

パワーエレを中心として、高性能電力変換回路、新エネルギー発電や電気自動車の研究を進めています。今回は、このようなパワーエレの世界をご紹介します。思いま。

パワーエレの塊、電気自動車

図1に電気自動車（EV）の電気エネルギーの流れの一例を示します。ハイブリッド自動車（HEV）の電気部分もほぼ同じ構成となります。EVのエネルギー源は蓄電池です。蓄電池は直流電源であり、その電圧は安全な面から限界があり、例えばここ

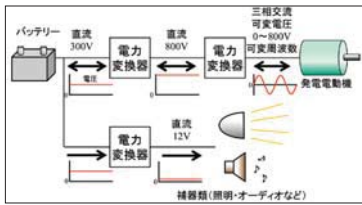


図1 電気自動車の電力の流れ（1例）

では300Vとしています。自動車を駆動する電動機の電圧は高いほど効率が上がります。しかも、近年のEV用電動機はメンテナンス性や効率を考慮して交流電動機が使用されています。つまり、電動機側では時々刻々と電圧が変わる交流が必要となります。そうすると、図1に示すような電圧300Vの直流をより高い電圧（例えば800V）の直流に変換して、更に交流に変換する「電力変換器」が必要となります。また、照明やオーディオなどは従来の車載用を利用した方が良

高効率化と低ノイズ化が課題

このように、自由自在な電気エネルギーの変換を実現するのが「電力変換器」であり、電力変換器を中心として全体の制御やシステムも含めた技術分野が「パワーエレクトロニクス」です。つまり、電気エネルギーの総合的最適利用を考えるのがパワーエレなのです。

いくら、自由自在に電気エネルギーを変換することができると言っても、効率が悪くは使えない物になります。例えば、効率50%だとすればエネルギーの半分を無駄にしていることになり、そこで、パワーエレの中心を成す電力変換回路では図2の(a)に示すようなスイッチのオンオフだけを使って電力の変換を実現しています。この回路で、この回路の出力電圧を調整することが出来ます。この回路の出力電圧を調整することが出来ます。この回路の出力電圧を調整することが出来ます。

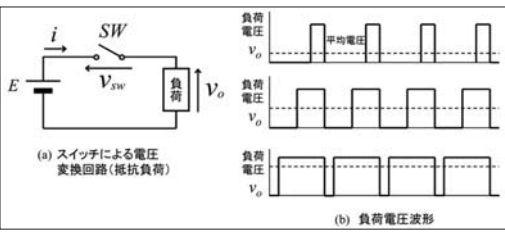


図2 スイッチによる電圧の変換



学生が製作に関わった1人乗り小型電気自動車

いので、ガソリン自動車と同様な12Vの直流電源も必要となります。このように、自由自在な電気エネルギーの変換を実現するのが「電力変換器」であり、電力変換器を中心として全体の制御やシステムも含めた技術分野が「パワーエレクトロニクス」です。つまり、電気エネルギーの総合的最適利用を考えるのがパワーエレなのです。

Wとほとんど差がありません。しかし、損失そのものは10Wと20Wと倍も違うのです。この損失は熱となり、発熱が大きいと冷却のために装置が大型になり、冷卻ファングが必要になったりします。小型化・静音化・省メンテナンス化の鍵が高効率化なのです。また、電力変換器ではスイッチのオンオフで電力を変換します。スイッチのオンオフの際には電圧や電流の急激に変化します。電圧や電流の急激な変化は周囲にノイズをまき散らす可能性があります。このように、「高効率化」と「低ノイズ化」を両立させる電力変換回路の開発が研究の大きな柱となっています。

回路の開発に当たっては、理論検討やコンピュータシミュレーション、試作回路による実験が欠かせません。しかし、実験室レベルだけだとどうしても社会で必要とされる実感に欠けます。実用化に当たっての課題を見逃す可能性も有ります。そこで、学生のものがづくり教育も兼ねて、実用的なパワーエレ応用装置を作成しています。代表的な試みとして、一人乗り小型電気自動車の製作やマイクログループ発電の河川におけるフィールド試験などを実施しています。小型電気自動車については、公道走行の競技会である「四国EVラリー2009」において、カテゴリー「優勝」を果たしました。このような試みは、研究+αの手間が掛かりますが、なにより「おもしろい」のでモチベーションが大変上がります。これからも、パワーエレを通してエネルギー利用の夢を追っていきたいと思います。

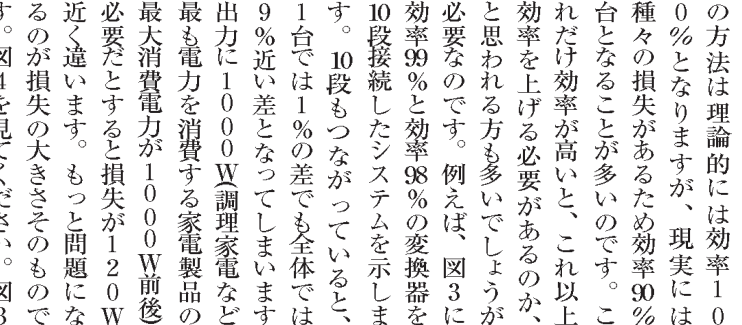


図3 なぜ高効率が必要か？（多段階）

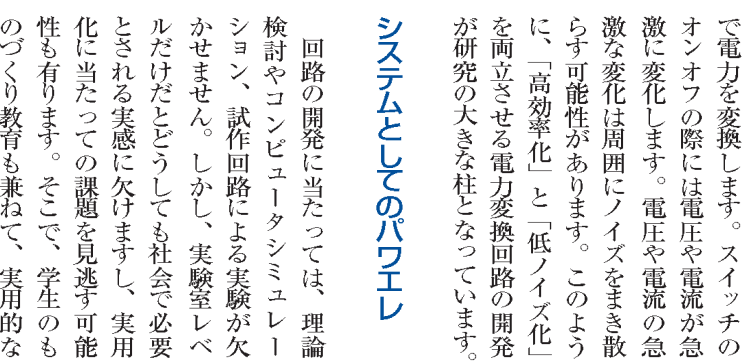


図4 なぜ高効率が必要か？（小型化編）

「春が来た 春が来た 春が来た」どこに春が来た（高野辰之作詞）皆さんに春が来たと思いませんか。嬉しくても悲しくても春は来ます。新たなスタートの機会です。1面に登場のOB、高久勝美氏は現役のフットボールとして活躍していらっしゃいます。2、3面は留学特集。海外から宇大へ、宇大から外国の大学へ。さまざまな目的や理由などによる留学体験を集めました。3面下欄には、「栃木SC」との連携協定、附属農場が開発した「ゆうだい」21品種登録を紹介しました。4面は社会との連携。宇都宮市、鹿沼市、栃木県との地域貢献支援事業を紹介しました。5、8面は、峰キャンパスと陽東キャンパスの鳥瞰図付き案内。保存版です。図は新たに書き起こしました。9面は新たな特集「Welcome to 研究室&ゼミ」。今回、「田巻研究室」と「森林生態学・育林学研究室」からコメントをいただきました。10面は「空きコマを有効に過ごすための秘訣や場所」宇大生アンケート。下欄には手芸サークル「クチュリエール」の紹介です。11面は学内各部署からのインフォメーションを集めました。12面の研究キーワードは船渡先生の「パワーエレクトロニクス」。電気自動車の研究を進めています。（編集委員T）

「春が来た 春が来た 春が来た」どこに春が来た（高野辰之作詞）皆さんに春が来たと思いませんか。嬉しくても悲しくても春は来ます。新たなスタートの機会です。1面に登場のOB、高久勝美氏は現役のフットボールとして活躍していらっしゃいます。2、3面は留学特集。海外から宇大へ、宇大から外国の大学へ。さまざまな目的や理由などによる留学体験を集めました。3面下欄には、「栃木SC」との連携協定、附属農場が開発した「ゆうだい」21品種登録を紹介しました。4面は社会との連携。宇都宮市、鹿沼市、栃木県との地域貢献支援事業を紹介しました。5、8面は、峰キャンパスと陽東キャンパスの鳥瞰図付き案内。保存版です。図は新たに書き起こしました。9面は新たな特集「Welcome to 研究室&ゼミ」。今回、「田巻研究室」と「森林生態学・育林学研究室」からコメントをいただきました。10面は「空きコマを有効に過ごすための秘訣や場所」宇大生アンケート。下欄には手芸サークル「クチュリエール」の紹介です。11面は学内各部署からのインフォメーションを集めました。12面の研究キーワードは船渡先生の「パワーエレクトロニクス」。電気自動車の研究を進めています。（編集委員T）

宇都宮大学広報室 UUnow 第21号編集委員 編集長 渡邊 直樹 理事 企画 広報担当 編集委員（平成22年3月現在） 小泉 静香 国際学部3年 鹿子澤志保 教育学部3年 眞弓 泰葉 教育学部3年 大平 准之 大学院教育学研究科1年 山口佐知子 大学院教育学研究科1年 増山 明恵 大学院教育学研究科1年 村田 大誠 大学院工学研究科1年 渡邊 泰之 大学院工学研究科1年 松尾 昌樹 国際学部教員 川原 誠司 教育学部教員 長澤 武 大学院工学研究科教員 山本 善穂 農学部教員 佐々木英和 生涯学習教育研究センター教員 菊池 浩行 学生支援課職員 茂木 博 学術情報課職員 矢口 季之 企画広報室職員 高橋 和廣 企画広報室職員 本橋 宜久 企画広報室職員 辰巳 太郎 企画広報室職員

新入生歓迎スポーツ大会

目的：新入生と在校生の親睦をより深めてもらう
 内容：ソフトボール・バレーボール
 日時：5月15日（土）、16日（日）
 場所：宇都宮大学峰キャンパス 第1・2体育館、多目的グラウンド
 対象：宇都宮大学の学生のみで構成されたグループ
 条件：1名以上の新入生の参加
 申込：4月30日（金）[共通教育D棟3F1341教室 18：00～]開催の委員会に参加して下さい。当日、参加希望用紙を配布します。
 参加費：一種目500円（ソフトボールは雨天中止の場合返金します）
 スポーツ大会に関する詳細な情報は委員会にてお知らせします。

お問い合せ ● 宇都宮大学新入生歓迎実行委員会
 TEL：028-634-5877
 E-mail：minegakasai@yahoo.co.jp

2010.Spring